

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2671400253
法人名	ウェルコンサル株式会社
事業所名	フレンド平城山・山城
所在地	〒619-0215 京都府木津市梅美台2丁目1-1 (電話) 0774-71-8170

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年1月13日	評価確定日	平成21年3月2日

【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 12月 26日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	24 人	常勤 6 人, 非常勤 18 人, 常勤換算 12 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	3 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (700,000円) 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	700 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		1,800 円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名	
要介護1		名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名		要介護4	5 名		
要介護5	2 名		要支援2		名	
年齢	平均	85.2 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立山城病院、大森クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

奈良県を中心にグループホーム展開され、地域に密着し、利用者本位を追究した介護を展開する法人を母体を持つ当該ホームは、新興住宅と緑が混在し、田畑や竹林に四季が感じられ子どもの声が聞こえる環境にあります。「自分らしく安心できる生活、入居者の尊厳、地域の連帯」の理念を基に管理者はプロのいる家庭と位置付け、職員と共にその実践に取り組んでいます。法人内のつながりも密であり、研修や会議を通して情報交換を行いながら、利用者本位の個別ケアを実現しています。医療面においても、家族の安心につながる体制がとられ、ターミナルケアにも職員は一丸となり支援しています。また、地域では新しい町の発展と共にホームがあり、自治会や保育所、小・中学校との交流が地道な努力の結実となり、地域に根ざしたホームとなっています。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受けて、職員は一人からでも食事を入居者と一緒にとるようにしたり、運営推進会議を2ヶ月に1回開催するなど、職員を育てる方向と、ホームの質の改善に繋がる視点を持って取り組まれ、改善に繋がっています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、全職員に回覧し、職員会議で意見を聞き管理者がまとめて記入しています。職員は自己評価を行うことによって、改めて改善点ははじめホームの課題への理解に繋がっています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族、自治会代表、民生委員が参加し、時々市職員も参加する運営推進会議が2ヶ月に一度行われています。ホームの状況や報告を行い、地域行事などの情報を得る機会となっています。また、家族の出席が多く、希望や意見が出され活発な会議となっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪は頻繁で、その際には面談し意見や希望を聞くようにしています。運営推進会議にも多数の家族が参加しており、活発に意見を表せる機会となっています。また毎年家族にアンケートを取り、意見や希望に対して課題を設け運営に反映させています
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会の会合には職員が参加し、夏祭り際には子ども向けの出店をし、職員や入居者がお店に立つなど地域との交流が活発に行われています。2ヶ月に一度地域向けのホーム便りが自治会の広報とともに配布され、地域住民から見学やボランティアなどの申込みにつながっています。また保育所での芋煮会のお誘いや、小・中学校の課外授業の受け入れも行われています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	フレンドとしての運営理念が掲げられており、創設時より地域との連携についても謳われている。また標語を作り「いつもあなたのそばに居ます、一緒に街に出かけましょう」と掲げ、入居者との関わりについても具体化している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念や標語は誰もが見やすい所に掲げられており、管理者は職員にケア会議や日々の会話において理念にそったケアについての話をしている。「家」という思いの中でプロのいる家庭を目指しながら日々のケアに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事には出来るだけ積極的に参加し、地域の一員となっている。年々規模が拡大する自治会への情報発信のため、「ホームだより」を広報と共に配布している。その結果地域の方がホームに遊びに来られるようになった。また、保育園との双方向の交流が育まれ入居者の大きな喜びとなり、また小・中学校の課外授業の受け入れ等、活発な取り組みがなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受け、課題に向け取り組まれている。自己評価は、職員全員が目を通し、会議で意見を集約し、管理者がまとめている。自己評価の中で職員は介護に対する意識を再確認し、サービスの質の向上に繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、自治会代表、民生委員が参加し、時々市職員も参加する運営推進会議が2ヶ月に一度行われている。ホームの状況や報告を行い、地域行事などの情報を得る機会となっている。また、家族の出席が多く、希望や意見が出され活発な会議となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席が時々あり、ホームの様子を見てもらう機会があり、欠席時には報告書を持参し内容の報告を行うとともに意見交換を行っている。依頼事項や相談事があれば気軽に声を掛け、対応して頂ける関係作りが出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、ホームの様子が記載された「フレンド」を発行し、入居者それぞれの生活や心身の様子が書かれた手紙を家族に送付している。また来訪時や電話でも様子を伝えている。預かり金は出納帳に記載し、入出金の確認をしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪は頻繁で、来訪時には面談し意見や苦情を聞くようにしている。運営推進会議にも多数の家族が参加しており、活発に意見を表せる機会となっている。また毎年家族にアンケートを取り、意見や苦情に対して課題を設け運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ない理由による離職や異動はあったが、出来る限り馴染みの職員でのケアに配慮している。新任の着任については、慣れるまで雰囲気や様子を見てもらい、チームケアを大切にしながら支援している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修として、リーダークラスは毎月、社員は2ヶ月に一度計画が策定されている。ホームにおいては、毎月のケア会議や希望に合わせて日中のシフト内で行ったり、積極的に学習の機会を作り職員の質の向上に繋げている。実践者研修等の外部研修についても出来るだけ多くの職員が受講できるように取り組まれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者が立ち上げられた奈良県のグループホーム運営協議会に参加し、情報交換を行っている。職員は外部研修などに参加した中で、つながりのあった方々との交流を行っている。また法人内のグループホームとの交流は頻繁に行われている。	○	職員が他のホームとの交流や、交換研修等で同業者の様子を知ることが、現状サービスの確認となり、更なるサービスの向上に向けても貴重な経験になるため今後も交流の機会を持たれることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と共に見学に来て頂き、一人ひとりの希望に応じて1週間程度の体験入居からすすめるように支援している。入居の際には家族と密に話し合い、また入居後についても家族に協力を得ながら、出来るだけ入居者に寄り添い様子を見ながら対応を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で入居者に助けて頂くことが多く、植物の育て方や、食事の味付けやメニューなど積極的に経験に頼るようにされている。百人一首や漢字の知識、季節の習わしなども教わりながら入居者と一緒に過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話の中から知り得た情報を記録し、職員間で共有しながら一人ひとりの思いにそったケアに努められている。さらに担当者制をとっており、より深い把握にも努めている。	○	現在法人全体でアセスメントフォーマットを改訂される予定である。今後さらに詳細なアセスメントを通して思いの把握に努められる事が期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の希望や来訪時等に家族カンファレンスにて意見を聞き、職員間で話し合い、一人ひとりに合ったケアプランが作成されている。担当職員制を取ることで、職員の中からケアプランの立て方や、作成に向けてより積極的な状況把握に繋がっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは3~4ヶ月に一度評価を行い見直しがされている。状況の変化時には随時見直しを行っている。日々の記録の中でケアプランにそった記録もきっちりとなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や馴染みの美容院への送迎、散歩がてらの喫茶店でのモーニングや入院時の付き添いや見舞いなど状況に合わせて個別支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に入居者や家族の希望を聞いてかかりつけ医を決定している。ホームドクターによる往診や24時間の対応が可能である。また歯科医による月に2回の往診もあり、またその他皮膚科、精神科の往診も可能である。法人の看護師の緊急時の援助体制もあり、医療に対する安心に繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にはホームの看取りの指針を家族に伝え、重度化していく中で改めて対応を相談している。法人として、入居者に対するトータル的なケアを考えており、終末期の在り方についても出来る限り支援して行く方針である。実際には過去に2回の看取りの経緯があり、職員は事前に学習し、医師や家族と一体になって対応をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合った言葉遣いを心がけており、プライバシー等の研修も行っている。個人情報の記載された書類は、鍵のかかる事務所で適性に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者優先という思いの中、個々のペースに合わせて自由に過ごせるように配慮している。自分の意思が明確に表せない方も多く、誘導する場合もあるが、個々の意思を尊重しながら支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみ事の一つで、入居者の食べたい物や旬の食材を取り入れ、出来る方に調理の手伝いやテーブルを拭いたり、後片付けをして頂いている。段取りの終わった職員と共に和気あいあいと食事を一緒にしている。またおやつ作りはみんなで作る機会となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は同性介助を基本としプライバシーに配慮しながら、16時頃から18時頃に1日おきに入浴されており、入居者の思いを大切にしながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野での手伝いや趣味の継続に配慮しており、食事づくりや掃除、洗濯物たたみなど役割の他、買い物やボタン付けをして頂いたり、飼っているどじょうのえさやり、園芸づくり等積極的に声掛けをし、日々の励みになるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は冬場でも出来る限り出掛けるよう心がけている。散歩や買い物の他、法人の合同行事、保育所からのお誘い、2~3ヶ月に一度の外出、季節毎の花見や紅葉など様々な外出の取り組みがなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員による見守りを徹底しており、ホームの玄関、入口は日中鍵を掛けないケアを実践している。外に入居者が出られる場合は職員と一緒に出掛けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施し、1回は消防署立ち会いの下、1回は独自の訓練を行っている。地域への働きかけについては、運営推進会議を通して民生委員に情報を提供し協力の受け入れを了解いただいております。近所の方には非常時の応援依頼を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては法人の栄養士が来訪時にメニューのチェックを受けアドバイスもらっている。一人ひとりの食事摂取量、水分量も1日を通してわかりやすく記録されている。入居者の状態に合わせて、ミキサー食や刻み食などの対応を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新興住宅地と田畑や竹林が望める環境に立地しており、窓から季節感を感じられる眺めとなっている。食堂とリビングは柱で区切られており、状況の変化で使い分けられている。サンルームのようなロビーにもソファが設置されくつろげる場所が確保されている。また、季節感が出るようにホーム内には花や作品が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者はそれぞれ思いの詰まったものを居室に持ち込まれている。仏壇やタンス、見慣れた人形などの小物が飾られている飾棚、家族写真や旅の思い出など様々なものに囲まれての生活である。また希望に寄って畳の対応も行っている。		